

# 熊田禎宣先生追悼文

政策情報学部教授 田 中 美 子

熊田禎宣先生は、昭和37年3月に東京工業大学建築科を卒業直後に大学院に進学し、昭和42年3月に同大学大学院理工学研究科博士課程を修了し、工学博士の学位を取得された。同年4月から東京工業大学理工学部助手として学生の指導を分担するとともに、研究に従事された。昭和44年4月東京工業大学理工学部助教授、昭和54年4月同大学教授に昇任し、平成12年3月まで教育研究とともに社会工学科、社会工学専攻および大学の運営に努められた。この間、昭和50年4月より平成12年3月まで、同大学大学院総合理工学研究科（システム科学専攻）教授を兼任された。その後、平成12年4月から千葉商科大学政策情報学部教授となり、教育研究とともに学部および大学の運営に努められ、平成16年4月に千葉商科大学政策情報学研究科設置に伴い、同研究科委員長に就任された。

熊田先生は、40年の永きにわたり、社会工学、特に計画理論・政策情報学の分野の第一線で教育・研究に努め、顕著な業績をあげ多数の優れた人材を育成された。先生のご指導を受けた学生のうち二十名余りは、現在、東京工業大学をはじめとする大学・大学院にて教育・研究活動をされている。また、企業においても、熊田門下生は重要な地位にあって活躍中であり、熊田先生の教育による社会への貢献は甚大である。

学問上の功績としては、計画理論・政策情報学分野の論文を多数発表したことが挙げられる。特に、都市・地域・環境分野における政策評価シミュレーション技術の開発と、社会実験にもとづく公共的意思決定システムの設計、改良に取り組んで来られた。熊田先生の研究の特徴は、工学と社会科学の両面から未開拓な分野に果敢に切り込み、独創的な方法論を創案・実践し、社会実験によって実用性の高い技術にまで高められた点にある。具体的には、日本で初めてコンピューターを活用した土地利用シミュレーションモデルを開発し、さらにはコンピューターでは再現しきれない人間行動を組み込んだゲーミング・シミュレーションモデルを開発し政策

実験に用い、政策評価のための社会システムシミュレーション技術を発展させた。従来の計量分析の技術では、複数の要因が相互に影響し合う複雑な社会システムの長期的な動きを解析することができなかったが、システム分析とコンピューターの活用により、政策評価の実務に耐えうる社会システムシミュレーションの基礎技術を確立した。

また、精緻なシミュレーション技術は事実判断の質を向上させることに役立つが、社会的合意形成には価値対立の問題に対処する必要がある。熊田先生は公共的意思決定への市民参加が不可欠であるとの立場から多数の社会実験を行った。具体的には、CATVなど情報通信技術を活用した合意形成実験、あるいは多段階の情報フィードバックを繰り返しながら市民が政策形成に参加する対話型情報交流実験等により、参加制度を設計するとともに、制度評価を行うための社会実験方法を確立した。従来、市民参加制度は、知る権利、発言する権利などの市民の権利保障という観点から設計されていたために、制度の有効性を社会実験で実証するという考え方は存在しなかった。これらの研究では、参加制度の設計を討議と対話を通じた相互学習を促進するためのプロセス設計問題として定式化しており、制度設計と評価を行うための社会実験の指針として多くの研究者に影響を与えた。

また、高度情報化、地球温暖化という長期社会変動に対して、都市のあるべき将来像を異分野の専門家を国際的に組織して取りまとめた。特に、モノを生産する産業都市との対比で提唱された情報を生産する場としての情報都市のコンセプトは世界的にも評価され、同コンセプトを元にした国際デザインコンペ、および国際研究集会に発展した。

このような業績からわかるように、熊田先生は計画理論・政策情報学における研究の第一線にあって中心的な働きをし、多くの関係学会の国際会議・国際シンポジウムにおいて組織委員または代表を務められる一方で、数多くの招待講演を行った。また、このような業績のみならず、日本計画行政学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会、日本社会情報学会、日本不動産学会、日本地域学会、日本環境共生学会、日本不動産学会、日本都市住宅学会、日本資産評価政策学会の設立においては指導的な役割を果たし、会長、副会長、理事、評議員などを歴任するなどして、日本における計画理論・政策情報学の研究、教育およびその発展に多大の貢献を果た

された。さらに、International Society of City and Regional Planners, International Simulation and Gaming Association, Asian Real Estate Society の国際学会においても副会長、理事を歴任するなどして、計画理論・政策情報学の国際的な位置づけを高めることに貢献された。また、日本学術会議地球環境研究連絡委員会委員、同経済政策研究連絡委員会委員長、同 HDP 専門委員会委員長、同 IHDP 分科会委員長を歴任し、地球環境問題解決のために関連する国内諸学会の連絡調整と政府に対する政策提言を行い、公共政策・公共計画が如何なる役割を果たすべきかについて、海外へも積極的に情報発信された。

このような熊田先生の功績に対して、昭和39年に日本都市計画学会「石川賞」、昭和57年に日本都市計画学会「都市計画学会賞」、平成12年に日本シミュレーション&ゲーミング学会「日本シミュレーション&ゲーミング学会賞」、日本社会情報学会「優秀論文賞」、平成14年に日本地域学会「著作賞」、日本計画行政学会「特別功績賞」、日本不動産学会「著作賞」、平成18年に日本不動産学会「特別功績賞」、日本計画行政学会「論説賞」が授けられた。

以上のように、熊田禎宣先生は社会工学、特に計画理論・政策情報学の分野で優れた研究業績を挙げるとともに、有能な人材の養成に尽力され、学界、教育界および行政の発展に広く貢献されその功績は甚大であった。

ここに、改めて熊田禎宣先生に追悼の意を捧げるとともに、ご冥福をお祈りする。